



Press Release

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

平成 28 年度公募助成の 助成先が決定！ 贈呈式を開催！

平成 28 年度公募助成（活動及び研究） 助成先（活動団体・研究者）が決定しました 助成先に対する贈呈式を開催します

～身近な「いのち」を支える活動・研究を応援します～

○応募及び選考結果

JR 西日本あんしん社会財団では、平成 28 年度も「安全で安心できる社会」の実現に向け、心身のケア、防災、救急救命、事故防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究を広く募集しました。その結果、活動助成 72 件、活動助成（特別枠）30 件、研究助成 40 件の計 142 件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施し、助成の趣旨に合致した非常に優れた応募が多数寄せられたことから、前年度を上回る 65 件、5,261 万円の助成を行うことを決定しました。**平成 21 年度の当財団設立以来毎年実施してきた公募助成ですが、採択数、助成額とも過去最多となりました。また、今回の助成をもって累計約 3 億円の助成実績となります。**

	応募件数	助成決定		
		件数	金額	採択率
活動助成	72 件	38 件	2,311 万円	53%
活動助成（特別枠） ^注	30 件	13 件	886 万円	43%
研究助成	40 件	14 件	2,064 万円	35%
合計	142 件	65 件	5,261 万円	46%

注 「活動助成（特別枠）」は、東日本大震災や平成 23 年台風 12 号、平成 26 年広島土砂災害の被災地・被災者支援に関する活動を指します。

※助成期間は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの 1 年間です。

※各助成先の助成対象テーマは、別紙 1 『平成 28 年度公募助成（活動及び研究）』助成先一覧をご参照ください。

※事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、別紙 2 『平成 28 年度公募助成（活動及び研究）』の審査結果についてをご参照ください。

○贈呈式について

平成 28 年 3 月 25 日（金）15 時 30 分より、ウェスティンホテル大阪にて、助成先にお集まりいただいて「平成 28 年度公募助成贈呈式」を執り行います。目録の贈呈、受け取られた方からの決意表明等を予定しています。

＜取材について＞

贈呈式の取材をされたい場合は、3 月 18 日（金）17 時までにご連絡ください。

JR 西日本あんしん社会財団事務局 TEL:06-6375-3202



（平成 27 年度公募助成贈呈式）

【活動助成】			(団体名50音順)
活動名称	団体名	主な活動内容	
災害支援緊急搬送ネットワーク	特定非営利活動法人 アザレア掛橋コネクション	市民救急指導員講習講座の開催を通じて、公共と市民の協力体制を整備し、救命と速やかな移送のネットワーク構築を推進する。	
普段から社会的弱者を見守るためのコミュニティ生成型防災事業の実践	生きる力を育む研究会	子ども、高齢者、障がい者等の社会的弱者を守るためのコミュニティ再生を目的に、複数のコミュニティから参加を得て、避難訓練等を行うワークショップを開催する。	
ピア(仲間)サポータースキルアップ連続講座	特定非営利活動法人 遺族支援愛ネット	ピアサポーター(遺族という同じ立場からの支援者)の資質向上のため、「聴き力」と「話す力」のスキルアップを目的とする講座を開催する。	
災害時要援護者支援活動／稲野町と隣接地域社会と地域教育機関のコラボレーション ステップ2	稲野自治会	災害時の要援護者支援を目的に、隣接地域社会や近隣学校とともに防災講演会や合同防災減災訓練を実施する。	
子どもと高齢者のための防災救命訓練啓発活動～小さな私たちにできること～	特定非営利活動法人 エンゼルネット	子どもや高齢者を対象に、朗読家を招いた「こころの授業」の開催、またAEDの使い方等の見学を通して、防災救命の啓発を行う。	
グリーンケア	かなしみぼすと	悲嘆の中にいる人が、悲しみを持ったまま行ける場「かなしみぼすと」を定期的に開催し、グリーンケアを実践する。	
災害時に活動できる人材育成	救援ボランティア左京	被災時に必要な技能・知識を身に付ける講習を継続的に実施し、災害時に行動できる一般市民を育成、地域の防災対応能力を高める。	
電話相談員ステップアップ研修	社会福祉法人 京都いのちの電話	自殺予防及び傷付いた人の回復支援を行う「いのち」に関わる電話相談員の資質向上を図るため、日本電話相談学会が開催するワークショップ参加による研修を実施する。	
防ごう！防ぎえた死 さらなる救命率向上を目指して	京都橋大学 救急救命研究会TURF	心肺蘇生法を広く普及させるため、防災訓練や講習会を実施するほか、多数の人が集まるイベントで心肺蘇生法の体験ブースを設け、簡単な講習指導を行う。	
遺族支援	グリーンサポートラトル大津	毎月定例会を開いて、遺族が安心して語り合い分かち合う時間と場所を提供するとともに、グリーンケアについて学ぶ講座を年4回開催する。	
第7回全国学生防災書道展	特定非営利活動法人 健康まちづくり推進協会	書を通じて青少年の防災・救命に対する意識を啓発し、自然災害の教訓を後世に活かすため、全国の小中高生を対象に「防災」をテーマにした書道展を開催する。	
発災時要援護者支援活動	光明地区福祉委員会	災害時における要援護者支援のための要援護者及びその支援者リストを作成し、災害時支援活動訓練を実施する。	
次世代防災研究者連盟	次世代防災研究者連盟	学術発表会やサマースクールの開催を通じ、若手の研究者・学生等が防災に関する議論を深め、新しい防災研究や実践活動の機会を創出する。	
平成29年「1.17 阪神淡路大震災からの教訓」	特定非営利活動法人 震災から命を守る会	将来の災害時におけるリーダー育成を目的に、保育園、幼稚園児童を対象とした防災イベントを実施し、防災減災意識の涵養を図る。	
「聖和防災ふえすた」「聖和ウォーキングパトロール」	聖和寄り合いまちづくり	ウォーキングパトロール及び防災フェスタの実施により、事故や災害に対する住民意識の向上を図るとともに、いざというときに助け合える地域交流を推進する。	
災害時における臨時災害FM局開設の為に準備・支援態勢の構築活動	特定非営利活動法人 高槻ブロードキャスト	被災者に有用な情報を発信する臨時ラジオ放送局を速やかに開設できる態勢を構築するため、ハード面の整備と人材育成を進めるとともに、開設訓練を実施する。	
ことばの壁を越えて、災害に備えよう！ 一多言語情報提供セミナーと災害医療通訳研修の開催	特定非営利活動法人 多言語センターFACIL	日本語が母国語でない多様な住民すべてが、災害時に助け合えるよう、災害時の多言語情報提供やわかりやすい伝え方に対する意識を高める。	
慢性期高次脳機能障害者についてのグループ訓練	中丹高次脳機能障害者と家族の会「さくら」	慢性高次脳機能障がい者に対し、自身の障害に対する「気づき」に特化した訓練を実施する。自己認識の獲得を図り、社会復帰の向上を目指す支援活動を行う。	
奈良いのちの電話相談員研修活動	社会福祉法人 奈良いのちの電話協会	自殺予防および傷付いた人達の回復支援をするために、「いのち」に関わる電話相談員の新規養成講座や研修を実施する。	
自死遺族サポート	虹玉の会 自死遺族サポート「虹」	自死遺族を支援し偏見を解消する事を目的に、グループワーク等体験型の講演会や知名度の高い講師を招いての講演会を実施する。	
災害救助犬の育成事業	認定NPO法人 日本レスキュー協会	事故・災害時に行方不明者を捜索する災害救助犬の育成とともに、災害救助犬の社会的認知を高め、有事の際に力を発揮できるよう関係機関と良好な関係を築く。	
たかつき川キッズ調査隊 ～川遊び安全マップを作ろう！～	特定非営利活動法人 ノート	安全な川遊びの方法や身近なものを使った救助方法を体験する学習プログラムを実施するほか、子どもと地域住民が協働して「川遊び安全マップ」を作成する。	
精神障がい者に寄り添った地域防災ガイドブックの作成	社会福祉法人 のぞみ福祉会	震災の教訓を得る防災バスツアー、防災ワークショップを開催し、精神障がい者及び支援者等と地域防災について考え、精神障がい者に寄り添ったガイドブック作成を目指す。	
家族や愛する人を失った方々を支える	はずの会	家族を失った方等を対象にグリーンケアの専門家による講演会と少人数での分かち合いの会を実施する。また、グリーンケアに携わる支援者のための研修会を年4回実施する。	
自死遺族の自責感を和らげる公開シンポジウムと支援冊子の配布	特定非営利活動法人 働く者のメンタルヘルズ相談室	自死遺族の自責感を和らげるような環境を整えるため、研究者や自死遺族の方々等との意見交換ワークショップを実施し、セルフケアのマニュアルを作成・配布する。	
事故、災害等発生時における発達障害児への心理的サポート研修	特定非営利活動法人 発達凸凹サポーターてくてく	保護者等の支援者を対象に、事故災害時等における発達障がい者のパニック軽減の手法について研修会を実施し、地域の防災力を高める。	
子どもの防災お菓子リュック作り	hahaかふえ	子ども達の好きなお菓子で防災リュックを作る事により、悲壮な思いを軽減させ、母子で楽しみながら防災力を向上するワークショップを行う。	
「はりまいのちの電話」24時間体制への相談員増員に向けての広報活動	社会福祉法人 はりまいのちの電話	自殺予防等の「いのち」に関わる電話相談員を増員し、24時間体制を構築するため、ポスター等の広範な配布によるPR活動を実施する。	
兵庫・生と死を考える会 2016年度 講演会	兵庫・生と死を考える会	喪失体験を乗り越え、勇気と希望を持って力強く生きていく指針を得るために、体験者自身に語っていただく講演会を開催する。	
JR福知山線列車事故 被災者支援募金イベント フレンズかわにし実行委員会	フレンズかわにし実行委員会	事故の風化を防ぎ、安全を訴えるイベントを開催し、講演や音楽演奏、展示等を行うとともに、事故被災者支援のための募金を呼びかける。	
みんなで作ろう！防災かまどベンチ	平群町ボランティア連絡協議会	住民・行政・学校・企業・ボランティア等が平時はベンチ、災害時はかまどになる「防災かまどベンチ」を協働製作し、さらに炊き出し訓練を行って防災意識を向上させる。	
子どもたちの震災を子どもたちに伝え、地域防災に活かす。	望海地区在宅サービスゾーン協議会	地域全体の防災活動を推進するために、漫画を利用した防災教材を開発し、小学生や幼稚園の子どもたちの防災意識を高め、世代を超えた地域防災教室を開催する。	

外国籍住民のための防災教育出前授業の実施、 並びに「やさしい日本語」勉強会の実施	「やさしい日本語」有志の会	災害弱者となりやすい在住外国人に防災意識や防災知識を得てもらうための出前講座を実施するとともに、避難情報等をやさしい日本語に翻訳・活用する勉強会を実施する。
水害フォーラムキャラバンⅡ	特定非営利活動法人 リスクデザイン研究所	水害被災地におけるヒアリング調査やフォーラム、ふりかえりワークショップ等の成果をまとめた情報誌の発行を通じ、他の地域にも広く発信する。
「命」の大切さ伝えたい	朗読ういっしゅ	命と生きることの尊さを一人でも多くの人に伝えることを目的に、命をテーマにした朗読劇と命の大切さを伝える講演会を開催する。
自殺予防のための電話相談員養成	社会福祉法人 和歌山いのちの電話協会	自殺予防および傷付いた人達の回復支援をするために、「いのち」に関わる電話相談員の新規養成講座や研修を実施する。
保育園などに対する従来にない新しい防災啓発活動と 高校生による防災啓発活動をサポート	特定非営利活動法人 和歌山県木質資源開発機構	保育園児と保護者を対象に、間伐材等を薪に用いるペール缶コンロを使って備蓄食料の試食体験を行うとともに、防災ソングを活用した防災教育及び避難訓練を実施する。
どうする？ 災害時に備えたペットの救護対策 ～いざ、という時のための「ペットの躰(しつけ)」教室～	和歌山動物愛護推進実行委員会	災害時の人とペットとのより良い関係や行動方法を検証していくために、発表会やパネルディスカッション、飼い主とペットとの避難同行訓練を実施する。
活動助成小計 38件		

「平成28年度公募助成(活動及び研究)」助成一覧

【活動助成(特別枠)】

(団体名50音順)

活動名称	団体名	主な活動内容
みんな仲間だっちゃ！ やるぞ学習サポート隊 子ども未来図書館	アジア子ども基金	地域で子どもを育て、その子どもたちが地域を支える循環をつくっていくため、石巻市に開設した「子ども未来図書館」で、学習サポートや読み聞かせ会を実施する。
ふくしまキッズ2016夏 京都美山プログラム	特定非営利活動法人 芦生自然学校	福島の子どもたちが豊かな自然の中で遊びと過ごせる機会として、京都美山の山村集落を拠点に小学生とボランティアが共同生活を行うフリープログラムを実施する。
原発事故による避難者の見守りと交流活動	一般社団法人 関西浜通り交流会	福島県浜通り地域から関西に避難している人々に対し、関西在住の浜通り出身者を中心に構成されたスタッフが、気兼ねなく交流できる場を提供する。
被災地の元気に貢献する、被災地・大阪間の高校生交流事業	がんばろう！つばさネットワーク	被災地の高校生を茨木市へ招待し、親善試合やホームステイ等を通じて交流を重ねることで、被災地へは元気を与え、地元には防災に繋がる地域内連携を構築する。
福島原発事故により被災した子どもたち、母親への支援活動	神戸親和女子大学 福祉臨床学科 戸田・深澤ゼミ	福島第一原発事故後に避難生活を強いられている子どもたちへの心の支援と自主避難から福島に戻った母親たちの交流の場「ママカフェ」を提供する。
『双葉町応援隊-明日に向かって-』	ゴンターズ高原スポーツ少年団	被災地の意向に沿った交流ができてきたことから、息の長い支援を行って被災地の自立を促すとともに、京丹波町の子どもの育成と町づくりにつなげる。
東日本大震災により関西に避難する家庭等訪問 及び交流会による心のサポート事業	特定非営利活動法人 全日本企業福祉協会	高齢者や子どもに手のかかる世代等への訪問と交流会の実施により、避難者同士の交流機会を提供、また避難者との対面によるストレスケア活動を行う。
東日本大震災被災地生活基盤再生のお手伝い活動	たかしま災害支援ボランティアネットワーク 「なまず」	福島第一原発の影響範囲である南相馬市において、生活者が自宅へ戻るための除染に先立つ障害物の除去作業の支援を行う。
東日本大震災復興支援 :福島県双葉郡楢葉町の高齢者の帰町に伴うこころの支援活動	特定非営利活動法人 伝統みらい	高齢者サロンの撮影会、パソコン教室等の活動を通じ、被災地に帰町した高齢者のコミュニティを活性化し、孤立防止を支援する。
医療系学生による福島県内での 学生災害ボランティア復興支援活動	NARA Will 奈良県立医科大学 学生災害ボランティアグループ	災害時に有為な人材の育成を図るために、被災地において傾聴及び力仕事ボランティアを実施し、被災者のこころに寄り添った支援活動を行う。
いのちの大切さ	虹色の音	突然大切な人を亡くされた遺族へのグリーフケアを広島地区にて行う。体験談の語りと音楽療法を通じて、いのち、生きることの大切さを伝え、生きる勇気を取り戻してもらおう。
宮城県南三陸町への継続した支援のとりくみ (海の虹プロジェクト、復興支援餅つきツアー等)	東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア	南三陸町の中学生を京都に招いて応援者の存在に気づいてもらったり、漁協や仮設住宅等で復興支援餅つき大会を開催し、被災者の復興意欲を支える心のケアを行う。
みわのわ 福島県双葉郡こどもサマーキャンプ	みわのわ	福島県双葉郡の子どもたちを福知山市三和町に招いてサマーキャンプを実施し、子どもたちの心身の保養を支援する。
活動助成(特別枠)小計 13件		

【研究助成】

(研究者名50音順)

研究名称	研究者名	主な研究内容
発災時の共創的問題解決に関する研究	大阪女学院大学 専任講師 青木 慶	災害時の多様な状況下、様々なかたちで現れる日常生活上の問題を、共創的に解決するプラットフォームのあり方を検討する。
災害時や災害後を想定した新機構車椅子の提案	大阪産業大学 工学部 交通機械工学科 教授 大津山 澄明	自然災害時の避難時や災害後における車椅子での移動負担軽減を目的に、電動駆動方式や安全性を考えた設計デザインの新機構車椅子を考察する。
災害時における障がい者の避難環境と福祉用具に関する研究	公立大学法人 大阪府立大学 講師 小島 久典	障がい者の避難環境の現状を把握し、一時避難所におけるバリアフリー環境を構築するために必要な福祉用具を明らかにする。
バイスタンダーによる 応急手当推進のための制度論・解釈論の研究	公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 小西 敦	救急現場に居合わせ応急手当を行うバイスタンダー保護のために、保険制度や緊急事務管理規定等の研究を行う。
校内放送による防災学習プログラムの開発	関西大学 社会安全学部 准教授 近藤 誠司	小学校の校内放送を活用し、子供や教職員が楽しく負担なく防災教育を継続的に実施できる学習方法を開発する。
脳損傷者の表情認知と表出の特徴から 他者との良好な関係づくりに向けた方略を考える	兵庫医療大学 准教授 佐野 恭子	前頭葉の脳損傷患者について、表情認知と表出の特徴から他社との良好な関係づくりに向けた方略を考え、必要なりハビリテーションの方法等を提案する。
防災教育における知的資源としての妖怪伝承の再評価	神戸市立工業高等専門学校 講師 高田 知紀	日本の風土性の中で生み出されてきた「妖怪」を社会装置として捉え、平常時の防災教育に活用する方法を提案する。
消防団の活性化に関する萌芽的研究	関西大学 社会安全学部 准教授 永田 尚三	危機が多様化する中、様々な特殊災害対応を消防団が中心に担っているというわが国の現状・課題を踏まえ、実効性のある共助体制及び共助組織のモデルを提示する。
スタディーツーリズムの手法を用いた 鉄道防災教育プログラムの開発と実証	和歌山大学 地域連携・生涯学習センター 講師 西川 一弘	ジオパーク資源を防災教育の素材に用い、列車からの避難方法や情報提供に関する学習を含めた複合的プログラムを開発する。
雪氷災害及び雪氷複合災害への対策について	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター 主任研究員 古本 尚樹	雪害に対する自治体や交通機関をはじめとする関係機関の対応実態を明らかにし、改善策を提示する。
被災地ブログ等の共同翻訳を活用した 災害文化の国際的発信に関する研究	関西学院大学 災害復興制度研究所 特任准教授 松田 曜子	被災地のブログ等の共同翻訳をもとに作成した英語版教材について、防災学習ツールとして機能するかの検証を行う。
東日本大震災の復旧・復興において「平成の大合併」の自治体 再編がもたらした影響の検証—住民による政策評価を通じて	滋賀県立大学 准教授 丸山 真央	大船渡市選挙人名簿に基づいた無作為抽出サンプルによる郵送質問紙調査を実施し、東日本大震災の復旧・復興における自治体再編の影響を住民の視点から評価する。
言語音がわかりにくい高次脳機能障がい者に適した 放送音声の工夫	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授 三谷 雅純	「聴覚実験」と「音声の聞きやすさ／聞きにくさのアンケート」を実施し、緊急放送の聞き取りやすい音声を工夫開発する。
被災経験からの受援力向上のための実践的研究 :「被災地のリレー」への「準備運動」の視点から	立命館大学 准教授 山口 洋典	復興支援活動の継続を通じて構築されたネットワークを、次なる災害発生時に生かすための活動モデルを導き出す。
研究助成小計 14件		
<総合計> 65件		

【別紙 2】

「平成 28 年度公募助成（活動及び研究）」の審査結果について

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
事業審査評価委員会 委員長 白取 健治

「平成 28 年度公募助成（活動及び研究）」に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

1. 応募状況

「平成 28 年度公募助成（活動及び研究）」では、募集テーマを「事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケアに関する活動や研究」として募集いたしました。

活動助成及び「活動助成（特別枠）」においては、東日本大震災や平成 23 年台風 12 号災害及び平成 26 年広島土砂災害を受け、事故・災害時における地域の人々の拠り所としての地域コミュニティの重要性が再認識されていることに注目し、近畿 2 府 4 県における地域での新たな仕組みづくりやネットワーク構築など『地域との連携やつながり』を重視する活動を前年度に引き続き重点対象としました。

また、募集開始前から、近畿 2 府 4 県の社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、NPO 支援機関や大学等を対象にした広報活動を行い、募集期間中に助成に関する個別相談会を開催するなど、この公募助成制度をより多くの方々に知っていただくとともに、募集テーマの浸透に向けて積極的な広報活動を展開しました。

その結果、応募件数は研究助成が 40 件と前年を 6 件下回ったものの、活動助成が前年より 7 件増え 72 件、活動助成（特別枠）でも 30 件となり前年を 5 件上回りました。結果、合計で前年より 6 件多い 142 件（前年 136 件）の応募をいただきました。

2. 審査プロセス

審査は、これまでと同様、理事長から諮問を受け、まず事業審査評価委員会を開催し、審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

7 名の委員全員が全案件の申請書をじっくりと読み込み、1 次審査と 2 次審査において全案件について各自で評価を行いました。その後、最終審議の場としてあらためて事業審査評価委員会を開催し、各委員が 2 次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、採択案を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、応募資格を満たしているかの確認はもちろんのこと、募集要項に記載がある本公募助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準としながら、「社会的な必要性」、「独創・先駆性」、「計画性」、「経費の合理性」といった視点で厳正に審査を行いました。また、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等を総合的に勘案して、採択案を決定しました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、当財団が継続して助成を行う必要性や、今後の発展性、社会に対する影響力を十分に吟味したうえで、採択案を決定しました。

3. 審査結果

今回の募集でも、質の高い応募が多数寄せられました。これは、本公募助成が回を重ねながら、個別の相談会の開催や社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、大学等を通じた広報活動が実を結んだことに加え、助成活動の活動発表会等を通じて募集テーマが浸透した表れだと考えています。

最終的には、当初予定していた助成総額 5,000 万円を大きく上回る、活動助成 38 件、2,311 万円（前年 32 件、1,879 万円）、活動助成（特別枠）13 件、886 万円（前年 12 件、755 万円）、研究助成 14 件、2,064 万円（前年 14 件、2,434 万円）、合計 65 件、5,261 万円（前年 58 件、5,068 万円）を採択案件として理事会へ答申いたしました。採択率は、活動助成が 53%（前年 49%）、活動助成（特別枠）が 43%（前年 48%）、研究助成が 35%（前年 30%）となり、全体では 46%（前年 43%）と昨年を上回る結果となりました。

(1) 活動助成

東日本大震災に代表される災害報道や昨今の異常気象等による防災・減災意識の高まりを受け、防災・減災に関する応募が多く、採択案件も多数にのびりました。このほか、心のケアに関する案件も多くのお応募をいただき、防災・減災関連に次いで採択いたしました。

(2) 活動助成（特別枠）

東日本大震災等の被災者・被災地支援に関する活動については、発災からの時間の経過に応じ、今の段階で被災者が求める活動として、心のケアや復興に関する案件を中心に採択いたしました。

(3) 研究助成

活動助成と同様に、防災・減災に関する応募が多数寄せられ、当該分野の採択数が多くなりました。また、限られた助成金の中で研究分野のバランス等も重視した結果、身体のケアや救命、復興、安全など幅広い分野から本公募助成の趣旨に合致し、社会的必要性が高く独創的、先駆的な案件を採択いたしました。

4. 総評

今回も質の高い、優れた応募を多数いただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

昨年と比較すれば、研究助成で応募の減少がみられましたが、特別枠を含めた活動助成に対する応募は前年より 12 件増加しました。これは、社会福祉協議会や各市役所、ボランティア情報センター、NPO 支援機関等を中心に、直接出向いて訪問した事前の広報活動の結果と思います。

来年度以降も、引き続き訪問広報に積極的に取り組むとともに、募集要項や申請書の見直しなど、申請手続に係る改善をあわせて行い、申請者がより応募しやすい環境を整え、さらに質の高い案件の応募が多く寄せられるような工夫をしていく必要があると考えています。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。「安全で安心できる社会」の実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、そして新しく取り組みを開始される皆様のご活躍をお祈りしております。